

特定非営利活動法人 緑地雑草科学研究所 2026年6月発行

ニュースレター 22号

目次

会員投稿記事	1
編集後記	2



(川原を埋め尽くすマルバハッカ 2026.6 京都)



会員投稿記事



困っている雑草

ナガミヒナゲシ 山崎晴久（保土谷 UPL(株)）

筆者の近所、埼玉県ふじみ野市では、近年ナガミヒナゲシの侵入・定着が顕著になっています。道路脇、空き地、住宅周辺など多様な環境で生育が確認され、春季には群生化している場所も少なくありません。本種は外来植物であり、都市近郊における拡散力の強さが問題と感じているところ です。



群生するナガミヒナゲシ

ナガミヒナゲシは一果実内に多数の微小種子を形成するため、風、人や車両の移動、土砂移動等を介して比較的容易に分散すると考えられ、実際、前年には散発的にしか確認できなかった地点で、翌年には面的に発生している例も見受けられます。また、舗装の隙間や乾燥した裸地でも生育可能であり、市街地環境への適応性も高い印象を受けます。

一方で、本種は鮮やかな橙色の花を形成するため、景観

植物として好意的に受け止められる場合も多く、「きれいなので除草しづらい」という地域住民の声も聞かれています。この点は、防除推進上の課題の一つと考えられるのではないのでしょうか。



ナガミヒナゲシの花（写真左）と果実（写真右）

ナガミヒナゲシの蔓延抑制には、種子形成前の抜き取りや刈取りを地域単位で継続的に実施することが重要と考えられます。外来雑草問題は個人対応だけでは限界があり、地域全体で生態的特性を共有しながら管理意識を高めていく必要性を感じています。

参考：ふじみ野市「ナガミヒナゲシにご注意ください」

https://www.city.fujimino.saitama.jp/kurashinohoho/shokuhin_kankyo_eisei/kankyo_kankyohozen/8565.html



ハタケニラ 佐治健介（事務局）

先日、愛知県にお住まいの方から、「庭やその周辺にハタケニラが広がって困っている」というご相談をいただきました。



ハタケニラは、ヒガンバナ科の多年草で、小さな白い花を咲かせる植物です。もともとは明治時代に園芸用として北アメリカから持ち込まれた帰

化植物とされています。現在では、アスファルトの隙間や植え込みの脇、道端など、さまざまな場所で見られるようになっており、各地で分布を広げているという情報もあります。

この植物のやっかいなところは、地下にたくさんの鱗茎をつくることです。地上に出ている葉や花を取り除いても、地下に鱗茎が残っていると、そこからまた再生してしまいます。そのため、一度広がると完全に除去するのが難しい雑草のひとつです。

ご相談いただいた方は、ご自宅の庭では鱗茎を掘り起こしたり、除草剤を使って地下部まで枯らそうとしたりと、

さまざまな方法を試されているそうです。しかし問題は、自宅の庭だけにとどまりません。周辺の道路沿い、特に街路樹の根元付近にもハタケニラが繁茂しており、そこから再び庭の方へ広がってしまうのではないかと心配されていました。

とはいえ、街路樹の根元となると、個人でできる対応には限りがあります。地上部を取り除くことはできたとしても、鱗茎を掘り起こす作業や薬剤の使用となると、街路樹への影響や公共の場所であることを考え、ためられるのも当然です。その場合は、道路や街路樹の管理者に相談するのが現実的な対応になるのかもしれない。

今後、このハタケニラのように、周辺から各家庭に入り込んでくる雑草への対応が、各地で増えてくる可能性があります。皆さんの地域では、こうしたケースにどのように対応されているのでしょうか。実際に行っている管理方法や、管理者への相談事例などがあれば、ぜひご意見をお聞かせください。

参考：Wikipedia「ハタケニラ」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8F%E3%82%BF%E3%82%B1%E3%83%8B%E3%83%A9>



編集後記・募集

つい先日、北陸地方も梅雨入りし、ぐずついた天気が続いております。皆様いかがお過ごしでしょうか。

梅雨が明ければ、いよいよ夏本番です。年々暑さが厳しくなる中で、昨年6月から職場における熱中症対策が義務化されたことをご存じでしょうか。

対象となるのは、WBGT（暑さ指数）28℃以上、または気温31℃以上の環境で、連続1時間以上、もしくは1日4時間を超えて行う見込みのある作業です。義務化された主な内容は、「報告体制の整備」「対応手順の作成」「関係者への周知」の3点です。つまり、単に水分補給や休憩を呼びかけるだけではなく、熱中症の疑いがある人が出た場合に、

誰へ報告し、どのように対応するのかを、あらかじめ現場で共有しておくことが求められています。

特に屋外作業をはじめ、建設・土木、工場、倉庫、警備、農作業などでは、実務上の対応がより重要になります。今年も暑い夏が予想されます。日頃から体調管理に気を配り、無理をせず、熱中症を防ぎながら安全に過ごしていきましょう。

さて、ニュースレターも今号の発行で22回目となりました。次回、第23号（9月刊行予定）について、会員の皆さまのご協力を頂きたく、下記のコーナーへのご投稿をお願いする次第です。

- ・テーマ“困っている雑草”について、意見や技術情報など
- ・自由投稿：日頃の気づき、主張したいこと、技術・文献紹介等
- ・所属団体・企業の紹介

今号またはこれまでの記事についてのコメント、今後講演会や草と緑で取り上げて欲しいテーマや、雑草や雑草管理についての疑問・質問・感想なども歓迎します。

ご連絡先：佐治健介 (k-saji@bousou-ken.org)

ページ編集：宮井駿（京都大学雑草学研究室院生）